



無量寿会報恩講法要が11月8日
お勤めされました。ご講師は
長島町願證寺・高木格英師に
よる、高座説教をご聴聞、お
味わいさせていただきました。



報恩講法要にむけて皆さまありがとうございました

11月28日（土）本堂のすす払い
を、中組皆さまにお世話になりま
した。風もなく暖かい日でした。
外陣の天井、框、扉、境内の掃除
もしていただきました。



11月30日（月）有志の方により、
仏具などのおみがきをしていた
だきました。午後からはもち米か
し、内陣の掃除です。



12月3日（木）総代さん、有志
の方により、もちつきです。
また、翌日はお華東、盛り物で
す。



仏教社会例会

会員の内田さんより「先日名古屋別院奉仕団に参加した折、奈良からお越しのご講師のお話に驚きました。父親の四十九日法要をお願いしたいとのご門徒さんからの連絡に、お父さんの葬儀もしてなかったの、いったいどうされたのかと尋ねると、インターネットで安い料金のお寺を探して葬儀を出したというものであったとのことでした。その話を聞いた翌日、市内の友人に会い、お寺の永代経や奉仕団の話をしていたら、自分もお寺の役をしているが、組内の連合での法要2日であったのが1日になったことや、手伝いに出て来る人や、参拝も少なくなったり、法要に参加されるお稚児さんも少なくなり、これから10年後は行事もなくなっていくのではないかと心配を語ってくれたり、熱心なお父さんの代わりに代理で出てきた息子さんがお寺の作業が終わった後、皆でお茶を飲むことを断り、「親父が死んだらこのお寺をやめさせてもらう」と口にされたこと



があったそうです。お寺に所属するかどうか、お寺の存続の危機、どうこれからお寺を護持していくのか、どうすれば人が集まるお寺になるのか？どこも同じ問題を抱えている」とお話しくさしました。それに対して、参加者より様々に意見が出されました。1月10日は本山御正忌参拝と嵐山散策の旅に出かけます。

年番 お世話になりました。ありがとうございました。 上組 堀 利彦様 横山達生様

中組 杉野哲也様 前田陽一様 南組 岡田利彦様 藤原啓記様 新町組 鈴木 理様 駒田英久様

下組 駒田 訓様 稲垣国男様 岩原豊久野 荒木善行様 団地 杉野浩也様

青い鳥は、何処に

北海道 大島義勝さん

既に半世紀以上も前の事に為りますが、叔母に童話を読んで頂いたことを思い出します。

「青い鳥」メーテリクスの童話です。我が家は、昭和の初期から青果小売店を商んで居る自営業でした。その店番の合間時に、父の妹の叔母が、私達兄弟に読んで聞かせて呉れたのが「青い鳥」です。童話の中に出て来る青い鳥が、何時の間にか消えてしまふことに、「青い鳥は、何処へ飛んで行ったの」と叔母に聞く私達兄弟に、答えて「飛んで行ったの」と叔母は、青い鳥は幸せの鳥で、その幸せの中に貴男達は居るのよ、と教えたかったのではないかとこの思いに駆られます。優しい叔母を思い出す時に、必ず「青い鳥」を、当時が懐かしく思い出されます。

■童話を読む叔母に、何気なく聞く
「青い鳥は、何処へ飛んで行ったの」
真剣な間に、戸惑う叔母の困り顔
叔母の優しさを今も思い出す

■我が家は、昭和の青果物の小売業
果物も野菜も棚に山盛りの店構え
風避けのスタレは、ヨシズ編の風情
父の弟妹達が、交代で店の番

■店番の交代時に、童話を読む叔母
メーテリクスの童話「青い鳥」
今も時々思い出す、幼きあの日々
過ぎし懐かしい昭和二十年

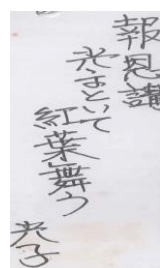
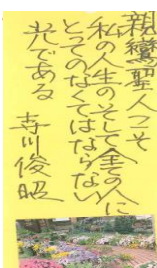
■青い鳥を探す日々に、出遭う時に
今は、往きし叔母に今でも逢える
叔母は、幸せは直ぐ側に在るよと
気着かせたかったのだろうか・

今年も後わずかになりました。年を重ねる毎に時間の経つ早さが感じられます。あたかも電車に乗っているごとくに、眼の前に移る風景、乗ってはおりて行く人々の様に生活もその時々過ぎ、一緒にいた方が先にそれぞれの駅に降りていく、新たに会おう人もあるがすぐ離れていきます。そんなこんなで、今年もあたたかい投稿ありがとうございます。新しい年がすぐそこに来ている。くれぐれもお大事にてお念仏ご相續。なんまんだぶ、なんまんだぶ

朝倉市森田瑛子さん



札幌市大島光子さん



倖な 老後と云われ 報恩講
息災に 一日終えて お茶の花
猊も無き 石も仏か 枯尾花
冬うらら 梢けぶらふ 野の銀杏
あるだけの 冬燈ともし 独りかな
山茶花の 散り重なりて 土の濡れ
小夜時雨 窓閉む時の 独り言

落合登代子

